

# 榛原北部地域の道路ネットワーク整備方針

## 地域の現状と課題

- 急峻な地形のため、大井川沿いのわずかな平地部に生活拠点が点在している。
- 今後も総人口の減少、高齢人口の割合の増加が予測され、地域活力の衰退やコミュニティ機能の維持が困難となることが懸念されている。地方創生に向け、地域的な結びつきが強い隣接市町と連携中枢都市圏を構成している。
- 豊かな自然や美しい景観など、多様な観光資源を有しており、新東名開通以降、観光交流客数が増加している。令和2年11月の賑わい交流拠点「KADOE OOIGAWA」のオープン、南アルプス国立公園の区域拡張などにより、さらなる観光交流客数の増加が期待されている。
- 局地的豪雨等による風水害・土砂災害が頻発・激甚化する中、県管理道路の通行止めが、10年間で226回発生している。

## 路線の現状と課題

- 道路ネットワークは、南北軸は大井川沿いの両岸に、東西軸は主に地域の南端部を通過する新東名や国道1号の国土幹線道路などにより形成されている。
- 南北軸の断面交通量は、国道1号から島田市役所川根支所がある家山地区（駿遠橋）までの区間は2万台/日、その以北においても、8千～1万台/日と多い。
- 災害発生時に、救急・救命活動や支援物資の輸送、復旧・復興活動を迅速に行うための重要な道路である緊急輸送路が大井川沿いに指定されている。
- これまで、緊急輸送路を中心に整備が進められてきているが、未改良区間などが残存する。国道1号から駿遠橋の区間は、異常気象時の事前通行規制期間が両岸とも存在し、災害に対する道路ネットワークの信頼性が低い。
- 緊急輸送路に指定されていない区間は、急峻な地形のため、改良率が低く、全面通行止めがたびたび発生し、道路ネットワークとして脆弱である。

## 道路ネットワークとしての整備の必要性

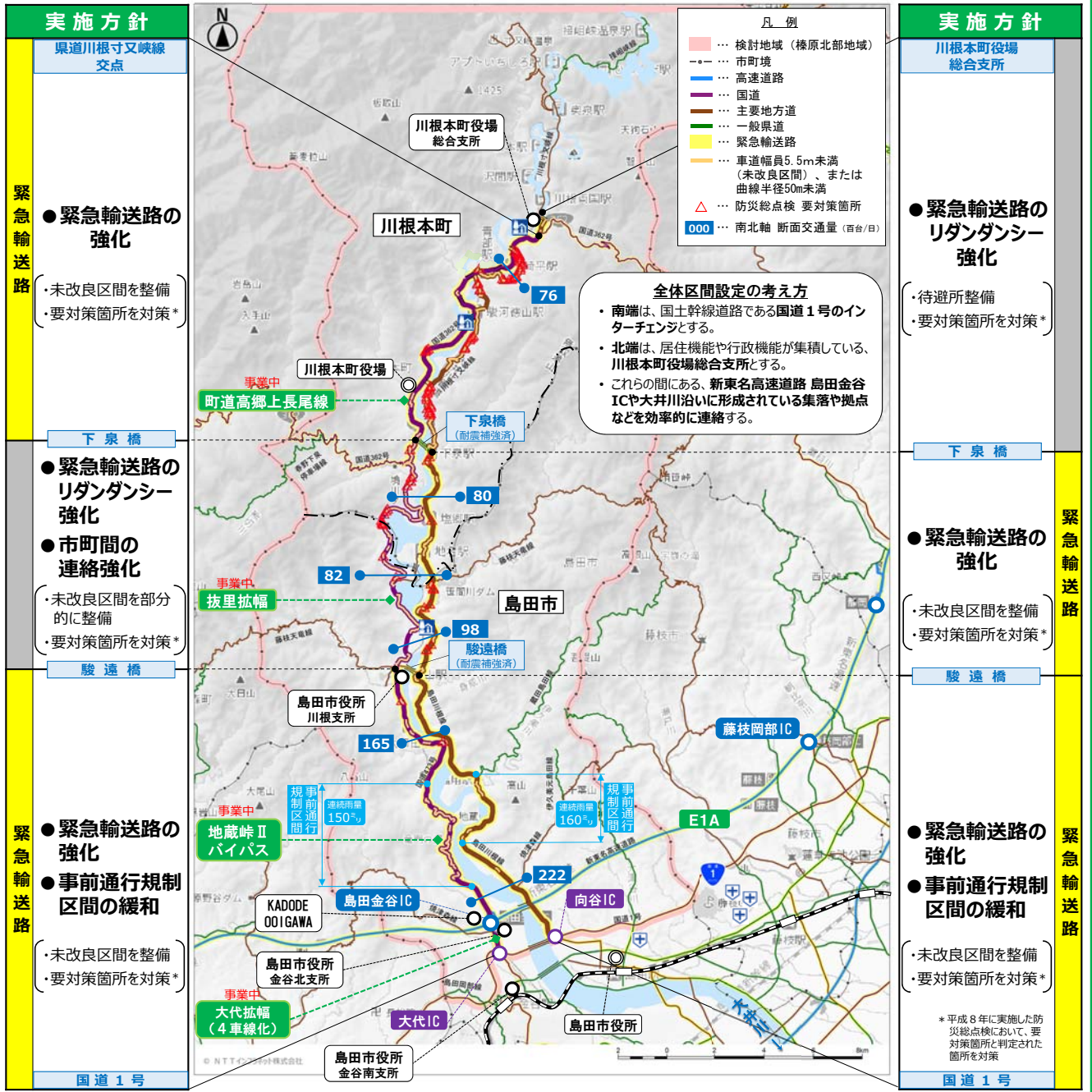
- 人口が減少する状況においても地域の活力を維持するため、生活圏や経済圏を同一とする都市圏内の都市との連絡性を強化するとともに、集落間を連絡する道路整備が必要である。
- 今後も増加が期待される観光交流客数を受け入れるため、広域観光を支える道路ネットワークを形成し、交流人口の拡大による地域振興を支援する道路整備が必要である。
- 激甚化する自然災害から命を守るために、多重性・代替性（リダンダンシー）を確保する災害に強い道路ネットワークの強化を図る必要がある。

## サービスレベル

- 地形条件から移動困難となる都市との連絡性の強化とともに、広域観光を支えるネットワーク形成が必要であることから、サービス速度を概ね40km/h以上とし、平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保する。

## 整備方針

- 榛原北部地域は、地形地勢の制約が大きく、大井川両岸に拠点が集中し、それ以外は広域的な道路ネットワーク機能の導入が困難であることから、大井川の両岸道路を相互にリダンダンシーを確保しあうダブルネットワークとして機能強化を図る。
- 早期のネットワーク機能の確保を図るため、今後30年間においては、緊急輸送路に指定された区間においてサービス水準の向上を図るとともに、緊急輸送路対岸における局所的な整備によるリダンダンシー確保に努める。



**実施方針**

**緊急輸送路**

- 緊急輸送路の強化
  - ・未改良区間を整備
  - ・要対策箇所を対策\*
- 緊急輸送路のリダンダンシー強化
- 市町間の連絡強化
  - ・未改良区間を部分的に整備
  - ・要対策箇所を対策\*
- 緊急輸送路の強化
- 事前通行規制区間の緩和
  - ・未改良区間を整備
  - ・要対策箇所を対策\*

**実施方針**

**川根本町役場総合支所**

- 緊急輸送路のリダンダンシー強化
  - ・待避所整備
  - ・要対策箇所を対策\*
- 緊急輸送路の強化
  - ・未改良区間を整備
  - ・要対策箇所を対策\*
- 緊急輸送路の強化
- 事前通行規制区間の緩和
  - ・未改良区間を整備
  - ・要対策箇所を対策\*

\*平成8年に実施した防災拠点検において、要対策箇所と判定された箇所を対策

